



No.85 2020.10.23

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

朝霧小 フレッシュ研修会 Zoom 版 Zoom でブックトーク「読書の秋♪ おすすめの本紹介」

10月14日(水)に朝霧小学校でフレッシュ研修会 Zoom 版が開かれました。8月から9月にかけて開催した朝霧小コミュニティ・スクール Zoom 体験会でオンラインでの授業にチャレンジされた先生方がオンラインにもっと慣れよう、そして新たな研修会の持ち方にチャレンジしようということで企画・実施されました。校内で学校配備のタブレットに加え、まち協さんの Wifi をお借りして個人のタブレットやスマホも接続できるようにするなど限られた環境のなかで工夫しながら実施されていました。



オンラインでの接続も結構スムーズで、先生方の慣れも感じました。今回 Meet ではなく、Zoom でやったのも、すでにスマホ等に Zoom を入れておられる先生が多いとのことからのようですが、アプリが変わってもすぐに対応できるのではと思いました。

ブックトークでは、紹介する本も多様なジャンルで、プリンや熱帯魚といった趣味の本から、サスペンスや小さい頃からずっと手元に置いてある絵本等まで先生方の個性があふれていたように思います。こうしたブックトークはタブレットが導入されたら、子どもたちが本の紹介をビデオで記録しながらよりよい紹介をめざすといった生きた形で活用されていくのではと思いました。また、朝霧小コミュニティ・スクール Zoom 体験会で Zoom を体験された地域の方が、地域の中で新たなチャレンジを計画されているようです。どんなことがこれから始まるのか楽しみです。今回の朝霧の研修では秘密兵器が登場しました。この秘密兵器はテーブルの真ん中に置いて使うものですがなんだかわかりますか？ すごい機能にビックリです。



「Meet de 対話 Part2」の第1回の対話の中でもタブレット導入に向け校内で研修を始めたところとまだ動き始めていないところがありましたが、校内で「ちょっとやってみよか」といったフットワークの良さが重要なんだろうなと思います。だれかがやってくれるのではなく、必要だと感じた人が声を掛け合って動き始めてみるのが、今求められているような気がします。(※秘密兵器：オンライン会議用カメラで、自動で話し手を感知して捉えるカメラ)

卒論に「コミュニティ・スクール」 卒論に向け、学生さんがインタビューにこられました

卒業論文を「コミュニティ・スクール」をテーマに書きたいという連絡を受けました。学生さんが「コミュニティ・スクール」をどのようにとらえているのかを聞いてみたいという興味や、コミスクが卒論のテーマになる時代なんだという驚きもあり、インタビューをお受けすることになりました。コミスク関連の論文や、プリントアウトした“コミコミスクスク”には付箋がいっぱい張られており、読み込み、準備をされてインタビューに来られたのが伝わってきました。

インタビューに向けこんな質問を用意されていました。

○明石市コミュニティ・スクールについて

- ・始めようと思ったきっかけ（どこから手を付けていったか、参考にした自治体はあるか）
- ・「熟議」とは（どういうものか、どう取り入れたか）
- ・学校運営協議会の話し合いの様子（構成員、どのような形式で、だれが中心に）
- ・校区によって特性や、それによるコミュニティ・スクールの取り入れやすさの違い

○コミセン、まちづくり協議会について

- ・これらはいつからあり、もともとどのような活動をしていたのか
- ・どのようにコミュニティ・スクール招き入れたのか（苦労した点・工夫した点）
- ・現在のコミュニティ・スクールとの関係（仕事の分担、学校とのかかわり）

○松が丘小学校

- ・モデル校に選んだ理由
- ・松が丘小学校をモデル校にするうえで、教育委員会の仕事
- ・松が丘サミットとは（コミュニティ・スクール）との関係
- ・松が丘小校区にアンケート（どのように作成したか、どういう人に配ったか、どのように配ってどのように集めたか）

○明石市の取り組み（コミュニティ・スクールの課題にどのように向き合っているか）

- ・教職員の仕事は増えていないか、もし増えているならどのように対策をとっているか
- ・PTA との関係、仕事の分担
- ・学校と地域が対等な関係になっているか
- ・地域の方々を学校に入れることは、どのようなメリットがあるか（具体的な例）、どのようなときに実感できるか
- ・これからの明石のコミュニティ・スクールはさらにどう展開していくか

用意された質問はミッションとしてコミスクに関り始めた頃自分が持った疑問と重なるものが多いように思いました。卒論でこんなふうにもとめていきたいという構想があるんだろうなと思いながら、メラメラと闘志がわいてくる大人げない自分を感じながらインタビューが始まりました。

インタビューに来られたのに、立場は逆転、逆に質問攻めにあつたのには正直びっくりされたのではと思います。

まず、私が知りたかったことはなぜコミスクに興味を持ったかということでした。そのことを聞くと、「小学校の時、日本人学校に通っていたことがある。そのとき日本人会の人たちが積極的に学校のお手伝いをしてくださった。今の学校にはそうしたことが必要なのでは？教師だけでは限界があるのでは。だから学校を支援する仕組みとしてコミスクが必要だと考えるようになった」といった趣旨のことを答えられました。現段階でのコミスクのイメージとして「地域の方が子どもたちの教育のために積極的に学校に関わっていく仕組み」ということでおさえさせていただきました。学生さんが持たれているコミスクへのイメージは私自身がモデル校としてコミスクにかかわり始めた時に持ったイメージであり、コミスクに取り組み始めた方々が最初に持たれるイメージなのではと思います。また学校での授業が私が受けていた昭和の授業と学生さんが受けた平成の授業がほとんど変わらず、自分の子どもの頃の学校と今の学校のあまり変化のないことなど 40 歳の違いがあっても学校に対してのイメージは共通していることなどを確認していきました。また、私が教員に

1. 冒頭あいさつ 播磨から仕掛ける「未来の教室」

・前田真吾（播磨ひとづくりコンソーシアム代表）

2. 経済産業省「未来の教室」プロジェクト?教育イノベーション政策の現在地点?

・浅野大介（経済産業省サービス政策課長（兼）教育産業室長）

3. セッション①「ICT化で子どものチャレンジの可能性はどう広がるのか」

GIGA スクール構想「1人1台」によって教育現場はどのような可能性が広がるのか、日常の学校生活のデジタル化はどのように子ども達の学びを加速させていくのか、GsuitをはじめとしたICTツールを「主体的・対話的で深い学び」実現のためにどのように活用するか、教科横断的な学びを実現する上で教員間でどのように連携すべきかなどについて、姫路の事例を元に議論し、ビジョンを描きます。

・三野 英利（Google Educators Group Himeji 共同代表）

・坂田怜輝（姫路市教育委員会総合教育センター指導主事）

・豊福晋平（国際大学グローバル・コミュニケーション・センター准教授）【モデレーター】

4. セッション②「社会の中の挑戦の機会」

地域に点在する教育リソースをどのように探究・プロジェクト型学習（PBL）に繋げていくか、教師自身がチェンジ・メイカーとして学校外の人材と学び協働し続ける環境づくりはどのように可能かなどについて、学社融合・産官学連携の観点から議論し、その道筋を明らかにします。

・白川 寧々（Hero Makers Founder） ・福本理恵（株式会社SPACE 代表）

・前田真吾（播磨ひとづくりコンソーシアム理事長）

・浅野大介（経済産業省サービス政策課長（兼）教育産業室長）【モデレーター】

※播磨ひとづくりコンソーシアムは播磨の若者の腕試しの場を作ることを目的にこの5月に姫路市の先生方や地元企業も巻き込んで立ち上げられた一般社団法人です。

※「未来の教室 ～Learning Innovation～」は、未来を見通しにくい時代を生きる子ども達一人一人が、未来を創る当事者（チェンジメイカー）に育つための学習環境を構築するためのプロジェクトです。

たくさんの先生方、保護者の皆さまを含め一般市民の皆さままで10月31日同じ時間を共有してみるのはいかがでしょうか。（文責：北本）

熊本では Kumamoto Education Week2020



熊本市が全国・全世界に向けてこれからの学びのあり方の発信です。1目的 よりよい教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、広く社会と共有し共に考える機会とする。<https://kumamoto-ew.jp/> 【検索：熊本市 KEW】

2主催 熊本市教育委員会、熊本大学教職大学院

3共催 経済産業省、株式会社NTTドコモ、熊本eスポーツ協会

3後援 文部科学省（申請中）

4期日 令和2年（2020年）11月8日（日）～15日（日）

（文責：北本）